

○ E C M勉強会における住友林業（株）様からの御紹介事例
知多半島グリーンベルト再生計画

<概要>

- 知多半島西側臨海部は、わが国経済の高度成長期を支えた、大手企業の生産拠点が連なった県下有数の臨海工業地帯。
- 約50年前、生産拠点を目隠しすることを主目的に、産業道路沿いに連続して、幅100m長さ10kmの大規模緑地を整備。
- 緑地は、今や高さ15m、幅約100m、長さ約6kmに渡る森林帯に成長。
- 50年の歳月の中、成長した「緑地」は、今や「森林」と化し、タヌキやキツネが行き来する、地域の巨大な生態系拠点化。

知多半島グリーンベルト再生計画



<企業緑地を利用した、地域の生態系拠点づくり>

- 知多半島グリーンベルトは、一方で、鬱蒼として活力度が低下傾向にあり、薄い植生基盤上に早成樹が多用されてきたことで風倒木も多く、また、広域的な対策が必要な生物多様性上の取り組みが、個別の企業に委ねられているなど、課題が多いところでもあった。
- そこで、鬱蒼とした状態を改善し「光と風」を導入する、除伐を主体とした整備を行うことで、企業緑地を活性化する緑地保全を提案。
- 「生きものが豊かな」緑地を再生し、広域的な視点で地域生態系の質的向上をはかる試みを、企業、NPO、行政、若者、地域に働きかけ、多様な主体が連携する取り組みを開始した。

知多半島グリーンベルト再生計画



＜企業の障壁を超え、多様な主体が参加する取り組み＞

- 2010年愛知県で行われたCBDCOP10(生物多様性締約国会議)で、愛知県大村知事が発表し、世界から大きな賞賛。
- 翌年、2011年8月、新しい公共支援事業「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」(総務省)の対象事業に、日本エコロジスト支援協会、エコアセット、愛知県自然環境課が連携した「知多半島臨海部の企業緑地における生態系ネットワーク形成担い手育成事業」が採択されことを契機に、関連11企業、行政(愛知県、知多市、東海市)、大学(日本福祉大学、大同大学)、エコアセットが連携し、協議会を組織。
- 以後、さまざまな活動を実践。